

「地球冒険学校」で学んだことの中から Y. T.

4月20日に八王子子供キャンプ場で130人を超える人たちが集まって、地球冒険学校の解散総会&バーベキュー大会が盛大に楽しく開催されました。

私たち親子が地球冒険学校に入学したのは、息子Hが八王子東養護学校で宮下先生に出会ったことがきっかけでした。私たちは、地球冒険学校の一期生で開校してからずっと生徒です。地球冒険学校ではいろいろと経験し、学びました。思い出を書き出しますと、枚挙に遑がありませんので、私が地球冒険学校で学んだことのうち、ほんの一つだけお伝えします。

地球冒険学校は、「地球」と付いていますように、地球規模の冒険をする学校です。その中でグアムキャンプがありました。息子Hは、1回目と2回目とも1人（親の同伴なし）で参加しました。「一人で参加する」と、聞いたときの私の感想は、「えっ！一人でグアムに行けるの、大丈夫なの、そんなことできるの……？」でした。もちろん「できたらうれしい」と心の底から思いました。夢のような話でした。Hは、1人でグアムに行ってきました。このことから学んだことは、地球冒険学校は、子供だけの冒険ではなく、親にとっても冒険だということでした。もちろん、それを実現するために、サポートしてくれた冒険学校に心から感謝感激！でした。

地球冒険学校が20年以上常に活火山だったのは、何とんでもなく宮下先生ご夫妻を核にして多士済々の世話人や前途有為のボランティアの皆さんたちが地球冒険学校の活動に意義や楽しさを見つけ出し、それぞれが自由に自主的に参加したことだと思います。宮下さんから総会後に届いたメールの中で、「皆さんと一緒に

子どものように遊び楽しめた21年間でした」と、締めくくられていました。同感です。「NPO法人地球冒険学校準備会」は、準備期間を終了しました。これからは、地球冒険学校で経験したことや学んだことを活かして、引き続き、「冒険」を続けたいと思います。



2019年 八王子 町屋カフェ
「Hさんの世界」個展

冒険学校の精神・モットーをわすれず O.S. & M.

21年間本当にありがとうございました。感謝の言葉しか、思いつきません。楽しかった思い出が次から次へと出てきます。なんと言ってもBBQ総会、高尾山車いす登山、音楽集会、運動会、宿泊しながらの行事もありました。かなえさんのつくる美味しいカレーもお口に残る思い出です。仲間を増やしながら、怪我することもなく、すてきな思い出を作り続けることができましたね。メンバーもいつか年齢を重ねるわけです。これからも健康に気をつけて、冒険学校の精神、モットーをわすれず、知性・感性を磨き、自由にのびのびと元気で行きましょう！

またの再会を楽しみに♡

2009.10.3. わくわくコンサート



2008年 わくわくセミナー休憩時
聴覚障がい子どもたちへ



2009.10.3. わくわくコンサート



—感謝— 小野 晴巳

今年は昭和 100 年、戦後 80 年巳年（私の〇生年）です。さらに「地球冒険学校解散年」が重なり、忘れられない年になりました。最後の会報ということで思いを簡単にまとめてみました。

I 過去から学ぶ難しさ —戦争をやめろ—

私が参加し報告してきたミャンマーを含む『戦没者遺族慰霊親善事業』（厚労省主催、日本遺族会委託事業）は本年度で終了しました。対象者の高齢化と参加者の減少が原因です。

ミャンマー地域は内戦・コロナ等によりここ 6 年間は休止状態でしたが、最後ということで隣国タイで慰霊式を実施することになりました。私も最後の機会なので参加してきました。（2 月 20 日～2 月 28 日の 9 日間）その報告と感想です。

参加者 16 名（全員男女共 80 歳以上）、事務局 3 名、看護師 1 名プラス現地通訳及びガイド数名の構成でした。

タイ国でもミャンマー国境の最も近く戦没者及び帰還兵が多かった地域ということで最北県のメーホーツ市を拠点に慰霊式（戦没者追悼式）を実施しました。目前のサルウィン河の対岸はミャンマー国です。人家もなくジャングル。片道 5 時間のこの地点は静寂です。

80 年前の日本兵の悲惨さをこの地域で展開していたことは想像できません。

備員らしい男性 4～5 人が小屋にいるだけです。

平和でした。「戦争」は今でも地球上で続いています。

人類はどこに行くのでしょうか。



タイ・ミャンマー国境線であるサルウィン川⇒

II 現在の息苦しさ —原発への思い—

生活していてなんとなく閉塞感を感じているのは私だけでしょうか。

物価高、戦争、内乱、災害、健康…などいくつでも数えられます。災害ひとつ考えても、地震・水害・熱波・火災などの自然災害と戦争、工場事故、交通事故などの人的災害があります。原発などは後者の代表的なものと考えています。

原発を考える根本的なものとして二つ私はあげたいです。

一つは、原発は未完成産業ということです。最終廃棄物（核のゴミなど）の処理の方法がないなどの産業はありません。もう一つは、原発の大義名分（目的）が変化することです。昔は、経済性（安い）とエネルギー面を強調し、今は気候変動対策と新型原子炉です。

賛成か反対かは別にして、安全規制と原発事故後の災禍を十分考えて判断してほしい。では明るい展望はないのかと言われれば、私見ですがあります。「核融合開発原子炉」です。残念ながら現時点では各国の猛烈な研究段階です。完成すればエネルギー問題は全て解決できるでしょう。「夢の原子炉」です。それこそ「原子力、明るい未来のエネルギー」です。完成するといいですね。

III 未来に希望を —教育は原点です—

教育は学校教育だけでなく家庭教育、社会教育などあり広範囲です。私は、学校教育の道を歩んできました。その経験から言えることは「教育は人生の原点（または基礎）である」と思います。子どもは大人に「なんで勉強しなくてはいけないの」とよく質問します。これに対して親は勿論、教師でも適切に答え納得させるのは難しい。正直内心ドキドキです。

でも安心してください。返事し話す内容全てが正解です。誤りはないです。「教育」という言葉は education の翻訳語です。江戸末期「教育」と訳したものです。この「教」という字が先に来ているから「教える」という意味があると考えてしまいます。しかし研究によると education には「教える」とか「育てる」ということよりもっと別の広い意味のあることが分かります。育児・社会性訓練など、人が大人になるまでの過程における大人からの働きかけ総体をさしているようです。ですから先ほどの質問に対して大人として対応していれば正答なのです。私は「人間が人間になるための営み」と思います。したがって、国の将来は教育にどれだけ力を入れ援助するかにかかっているということが私の持論です。現在の日本の繁栄は日本教育史でも紐解けば証明されています。もちろん問題はありました

IV 感謝です

冒険学校の諸行事を通して、皆様と出会い話し合えたことは本当に楽しかったです。おかげで私の人生が豊かになりました。解散はしますが、再会を心待ちにしながら、今までのご協力とご好意に対して厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

※小野 晴巳さん：地球冒険学校準備会発足から 10 年間理事長、その後顧問を務めて、「会報」の紙上ツイッターに 2013 年～2023 年まで 21 回もご意見を執筆下さいました。

2013/09/01 会報38号

最近思うこと～原発事故



2016/11/19 会報50号
原発 賛成？ 反対？ その1

2020/05/25 会報64号

我々の未来は？－直言・曲言－

われわれの未来へ (第11回)

2023.10.5. 会報76号

冒険学校は宝物 M. K.

地球冒険学校は、私たち家族のための学校だったように思います。5 人の子ども達が生まれて、仕事に家事に育児にと目まぐるしく過ごしていた日々。10 年もすると子どもたちに手がかることも少なくなり、それまで続けていた長期休暇での家族キャンプも一緒に行く子どもたちが 5 人から 4 人 3 人と少なくなっていました。そして時を同じくして、学校からだんだん自由が失われ、ルールを守り組織から逸脱しないことが良しとされることが増えていった。そんな時に始まったのが「冒険学校」でした。



何か楽しいことをするのは一人より二人、二人より三人と多ければ多いほど楽しさも倍増していく。冒険学校はそんな場所でした。楽しさを共有できるのが家族から仲間たちに広がって、とてもわくわくして楽しかったし生活が豊かになりました。

何よりも学校で出会った子ども達と長く繋がっていられたことが嬉しかった。一緒にいろんな経験ができたことが楽しかった。冒険学校での出会いは私の人生の宝物だと思っています。

子ども達は成長して自分の道を歩み始めます。とは言ってもつながりがなくなるわけではありません。冒険学校の解散もそんな巣立ちなのかもしれません。冒険学校で紡いだ仲間たちとの絆はこれからも大切に守っていききたい。まだまだみんなと楽しいことをしたいと思っています。

これまでの一つの区切りとして、一緒に楽しんでくださった皆さん、どうもありがとうございました。そしてもしよかったら、遊びたがりの世話人にこれからもお付き合いください。



まだまだ沢山の会員、
世話人、アドバイザー、
ボランティア、地域の方々と
活動を楽しみました♡

